



新しい時代の学びを実現する 新しい学校をめざして

須坂市教育委員会では、子どもたちにとって、よりよい教育環境を整え、未来を見据えた学校を目指し、現在、新しい学校づくり基本方針(案)の作成を進めています。

この「新しい学校づくりだより」では、市民の皆さまに、これまでの経過や小中学校の現状、基本方針(案)検討の方向性などについてお知らせしていきます。

須坂市では、デジタル社会に代表される変化が著しい時代の中で、子どもたちが自らの力で未来を拓くための学びとは、どのようなものかを求め、「小中学校のあり方検討会議」(2020年)と「子どもの学びのあり方検討会議」(2021年)を開催し、「須坂市として目指す学びの姿」について提言されました。この提言を受け、市教育委員会では学びの「須坂モデル」を作成しました。(2022年)

須坂モデルでは、提言を具体化する取り組みとして、「つなぐ・いどむ・のぼす」をキーワードに、次の8点を柱としています。

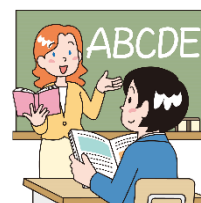
① 園小の接続による非認知能力※の育成の具体化

幼稚園や保育園等での遊びによる学び(他者との協働、会話力、協調性など)を小学校の学びにつなぎ、さらに発展させていきます。

※幼児期に遊びや様々な体験活動の中で育まれる「意欲」「協調性」「粘り強さ」「忍耐力」などといった能力

② 9年間を見通したカリキュラム編成による学びの構築

小中一貫教育を進めるため9年間を連続した学びとして学習を見直し、教科担任制や英語学習、総合学習などを充実させます。



③ 個別最適化された学びへの転換

教えてもらう学習から自分で学ぶ学習にするために、パソコンの活用や自分の学び方、自分のペースで学ぶ授業を取り入れます。

④ 協働的な学びによる思考力・判断力・表現力等の育成

集団の中で多様な考えに触れながら自分の意見を伝え、討論しながら自分の考えを深めていく学習を通して、未知の状況にも対応できる力を育みます。

↓裏面へ続きます

⑤ 総合的な学習での探究的学びの構築

地域を知ることが世界を知ることにもつながることを踏まえ、地域を題材とした自分のテーマを徹底的に追究する場を大事にします。

⑥ ガイダンス機能を生かす異学年集団での学びの構築

学校生活に楽しさを見出し、円滑な人間関係を形成することができるように、小中学校の壁を超えて異なる学年同士での学びの機会を取り入れます。

⑦ 一人一人に寄り添う特別支援教育、不登校支援の充実

子ども一人ひとりに寄り添い、個を認め合って自らを発揮できる教育をさらに進めます。

⑧ 学校を支える「学校運営協議会」の設置

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組んでいけるよう「地域とともにある学校」への転換を図ります。



須坂モデルに掲げた教育を行うために、小中学校が一体となり、子どもたちの力の育成を目指す、小中一貫教育を全ての学校で進めていきます。

須坂市では、そのための新しい学校づくりを考えていきます。



次回は、「須坂モデルを実現する新しい学校」についてです。

お問合せ：須坂市教育委員会 学校教育課 電話：026-248-9010